

地域交流事業

## やまびこサロン

開催時間 10:00~11:00

## 【西鴨】お楽しみ活動★ 9月8日(木):西鴨公民館

小鴨コミセンお出かけ事業「シダローズリース作り」

(シダローズとはバラの形をした松ぼっくりのことです。)

用意するもの:近用メガネ(必要な方)

## 【天神野】いろいろ遊ぼう♪ 9月15日(木):天神野公民館

音楽で健康増進♪

## 【中河原二】たのしく食育♥ 9月22日(木):中河原二集会所

簡単!健康レシピ紹介!



## 手話教室

日時: 9月20日(火) 9時~10時

場所: やまびこ人権文化センター 和室



ウイルス感染状況によってセンター事業を変更または中止する可能性があります。あらかじめご了承ください。

この夏、新型コロナウイルスオミクロン変異株の感染が拡大しています。熱中症とウイルス感染に気を付けましょう。

## 場面毎のポイント

## 【屋外】

マスクを外していただいて大丈夫です

【留意点】

- ・会話の際は、距離を取ってください。
- ・距離を取ることが難しい場合は、マスク着用を



## 【屋内】

基本的にマスク着用をお願いします

【留意点】

- ・人との距離が確保でき、かつ会話をほとんど行わない場面では、例外的にマスクを外して大丈夫です(例:図書館で一人で読書など)



## 熱中症予防のポイント

- ✓ 屋外での農作業や運動等の際は、周囲との距離を確保の上、マスクを外す!
- ※こまめな水分補給も重要です



## 運動時のポイント

- ✓ 距離をとれば運動時は必要ないが、休憩時や更衣室ではマスク着用を忘れずに!



## ~困りごとや人権侵害 ひとりで悩まないで~

悩みごと、生活での困りごとはありませんか?  
ひとりで抱え込まずに、どんなことでもご相談ください。

倉吉市役所人権政策課(電話 22-8130)

差別落書き・差別発言などに遭遇しましたら、  
倉吉市人権政策課もしくは やまびこ人権文化センターにご連絡ください。

やまびこ人権文化センター(電話 28-4265)



## 人ある限り人権を



発行 やまびこ人権文化センター

住所 倉吉市中河原 772-6 電話・FAX 0858-28-4265

E-mail yamabiko@ncn-k.net

## 小鴨地区に巡回地域食堂がやってきます!

部落解放同盟女性部が各地区へ生活に関するアンケート調査をしました。結果、「集まる場がほしい」「相談するところがない」、地域の少子高齢化・人口減少への不安な声が聞かれました。女性部として何ができるか考え、【地域の居場所づくり・活性化・生活支援・相談窓口・生きがいのづくり】の最初の一步として巡回食堂を始めるものです。



## 巡回食堂

## ばあばのランチ

今回のメニューは【特製カレーライス】

ひとりで食べるよりもみんなで食べるとなんかおいしい。  
話し相手がいるってなんだかうれしいね。

開催日時: 9月11日(日) 11時30分~

開催場所: 中河原二集会所

小学生以下:無料  
中学生・高校生:100円  
大人:200円

今回は、テイクアウト(持ち帰り)のみです。  
無くなりしだい終了します。  
どなたでも気軽に来てね!

※新型コロナウイルス感染状況によって中止することもあります。



# 災害時の情報

9月1日は「防災の日」です。

この日は、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、また、この時期に台風の襲来が多く、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められています。そして、ここ数年を見てみると、2016（平成28）年の鳥取県中部地震のほか、身の危険を感じる豪雨や台風接近などが相次いでいます。

## 鳥取県中部地震では・・・

震度6弱を記録した鳥取県中部地震から10月21日で6年を迎えます。この鳥取県中部地震では最大2,980人が避難所に避難しました。

ある地区の緊急に開設した避難先では、地震があった翌朝に、余震の不安のなかで地区住民と避難した人たちが協力して炊き出しを行なっています。

また、給食センターが大きな被害を受けたため、学校で保護者や地域の方による炊き出しや企業からの補助食品の支援がありました。

こうした支え合いは、人のつながり、地域のつながりがあってできるものです。そして、正確な被災の情報が伝わり、必要としている支援を収集することができたからではないでしょうか。

2011（平成23）年東日本大震災の時には、SNS（会員制交流サイト）が、非難や救助に関する緊急の情報を伝えるうえで重要な役割を果たしました。



鳥取県中部地震での被害（倉吉市内）



鳥取県中部地震での被害（給食センター）

## 2021年7月の豪雨では・・・

先日の東北地方での豪雨では、土砂災害や河川の氾濫で人的被害がありました。さらには家が壊されたり浸水するなど、大きな被害となっています。

小鴨地区ではこれまでに何度も、小鴨川が決壊して大きな被害を受けた歴史があります。私たちはこれを教訓として、災害に強い地域づくりをおこなっています。

昨年7月8日には降り続いた大雨で、倉吉市内でも各地が冠水しました。このときは大きな河川の氾濫はありませんでしたが、私たちのすぐそばを流れている用水路等の水があふれたのです。この大雨で避難した人もいました。

大雨や台風において、避難するかどうかを判断するには、的確な情報を取得することが重要です。



21年7月豪雨  
倉吉市内の状況



上写真：近くの用水路が雨水であふれ、住宅敷地や通路が冠水した。

右写真：道路上を流れる水。流れが速く、歩くと危ない。

## 防災気象情報



## 誰もが的確な情報を入手できるように

私たちは、台風や地震時には、テレビやラジオ、防災無線、インターネットなどで情報を取り、今後の行動、救助や支援対応を考えます。ところが、2018（平成30）年9月6日の北海道地震では停電が長引き、情報源となるスマートフォンの電池切れが続出しました。

情報が入らないと、被災者の不安は増幅し、戸惑い混乱します。的確な情報の発信がないと、必要な支援が届かないこともできます。さらには、情報発信や収集が不十分であれば、二次被害や風評被害にもつながります。信頼できる情報の発信・入手が、人の生命にかかっているのです。

高齢者や障がい者、外国にルーツを持つ人などには情報が伝わりづらいたることがあります。そうした人への情報伝達の配慮も必要になります。



## 災害時の情報

### 噂と偏見・・・差別を広げないために

インターネットは、情報の発信、入手、検索、共有が簡単にできます。災害時において、避難の判断や避難場所・経路の確認、救援・支援方法を決める材料として、この情報発信は大変重要となります。一方で、偽情報を流し、差別の拡散にも使われています。

近年、大きな災害が起こるたびにインターネット上では、不安をあおる噂や『外国人が犯罪をする』など、差別を助長するような書き込みが拡散されています。2011（平成23）年の東日本大震災、2016（平成28）年の熊本地震、2018（平成30）年の大阪北部地震や西日本豪雨災害でも、悪質な噂が流れています。

不安が募れば募るほど、デマ情報は伝わるスピードが速くなっていくのです。

### 誤った情報を見抜く力

様々な情報がネットを介して入ってきますが、私たちはその中から、正しい情報や誤った情報を見抜く力をつけることが大事です。

デマ情報でも、本人にとってはデマと知るまで「真実」と思い込んでしまいます。非常時には、特に冷静な判断を心掛ける

## 非常時に信じてしまう情報とは

2011（平成23）年の東日本大震災では『外国人の犯罪が横行している』という噂が拡散しました。

この噂に対して、東北にある大学が、仙台市と東京の新宿でアンケート調査を行いました。『外国人の犯罪が横行している』という噂を、仙台市で調査に答えた人の約半数が、東京新宿では約4割の人が「聞いた」または「ネットで見た」と回答しています。

そして、それを信じた人は、仙台、東京新宿ともに8割を超えていました。

非常時の心理状態では、衝撃的なものは容易に受け止めてしまうのではないのでしょうか。



こと。日々において、人権の情報を常に新しいものにしていくことも必要です。

私たちは災害時など、混乱の中にあっても、悪質なデマや行動に対して、自分の立場のみに意識をとられるのではなく、「人権」を軸に据えた行動を忘れてはいけません。